

読書週間

今日から5月8日（月）まで、春の読書週間となっています。今年度も、朝会で読書について話をしました。今回は自分が小学生のときや教師になって授業をしていたとき国語の教科書に載っていた話、または読み聞かせなどをしたことのある思い出の話を紹介しました。



そして特に朝読書の時間を大切に、約10分間落ち着いて集中して読書しましょう、という話をしました。

釜利谷小学校では、通常時程の火曜日と金曜日の朝の時間は「朝読書」となっています。

昨年紹介した「読書する子は〇〇がすごい」という本で、小・中学生のときはある程度読書をするが、高校生から先は読書の量が減る傾向が強い、という内容が紹介されていました。義務教育の中で読書の活動が保証されている結果ではないか、各自で読書するようになる高校生や大学生、大人になると、読書量がめっきり減ってしまう、ということでした。学校で読書をする時間が確保されるうちはともかく、自分の時間を使ってまで本を読もうという人は義務教育の後には多くない、ということのようです。またこれは平均的な傾向で、一人一人の読書時間が減るだけでなく、読む人と読まない人の差がますます激しくなる結果、ということのようでした。

自分の時間を使ってまで本を読もうとしない、という点については小学生も、日常忙しかったり本以外の楽しみがたくさんあったりして、同様なのではないのでしょうか。そこでせめて、せっかくの朝読書の時間にはしっかり時間を確保して、読書に専念してほしいと考えて話をしたところです。

また、朝読書の短い時間の中で、すぐ読めてしまう本を何冊も取り換えて読む、というのではなく、約10分間読むに堪える本や長い話を少しずつ読むというように、自分にあった本を選ぶようになってほしい、という話もしました。1冊読んで本棚に行き、また次の本を持って席に戻り、本棚には同じような子が行列している、というのでは読書の時間が確保されているとは言えません。

そしてできれば、朝読書で読み切れなかった本を自分の時間に自ら読む、というような読書の習慣化が図られるとよいとも思っています。まずは読書週間で、子どもたちに読書を勧めていきたいと思います。